

The Mille Has Times

2021
SUMMER

2022年6月開館
9月23日グランドオープン



Interview

大間ジローさん／佐々木新平さん

Research

「関心あり」は81% 100人アンケート

Interview

あきた芸術劇場ミルハスへの「思い」



【大間ジローさん（元オフコース）】

オフコースのドラマーとして活躍、その後は秋田市に拠点を置き、ミュージシャン、プロデューサーとして活動している大間ジローさん（67）に、あきた芸術劇場ミルハスへの思いなどを聞いた。大間さんは自らの活動とともに「次の世代のアーティストを発掘し、育てるのが私たち世代の役割」とし、「ミルハスはその発表の場を提供するなど一翼を担ってほしい。そのためにできることは積極的に関わっていきたい」と期待を寄せた。



次世代の
アーティストを育てる
一翼を担ってほしい

多岐にわたる公演で利用を

—2022年6月の開館に向けて、ミルハスの建設が着々と進んでいるが、建設現場を見て、どんな感想か。

建設現場に立つと、あらためて大きな施設だと感じる。オフコース時代に7回、旧県民会館でコンサートをしたことがあるが、当時が思い出される。

—ミルハスへの率直な思いは。

秋田は吹奏楽が盛んで、伝統芸能も豊富。ミュージシャンのコンサートから、クラシック、吹奏楽、伝統芸能まで多岐にわたる公演で利用されてほしいと思う。加えて、県民がなかなか触れることができない能や狂言なども提供してほしい。

旧県民会館時代は舞台が狭く、ツアーの美術セットがすべて置けずに残念な思いを

した記憶がある。新しい劇場は舞台の広さも十分に確保していると聞いており、その部分では安心している。

個人的には、新しく造るのであれば大ホールのお客様は3千席クラスにと思っていた。その点では残念だが、秋田にはすごい劇場があるとアーティスト、県内外の音楽ファンに知らしめるように運営してほしい。



おおま・じろう

1954年、小坂町生まれ。ドラマー、ボーカリスト、音楽プロデューサー。大館鳳鳴高卒業後に上京、74年にバンドでレコードデビュー。76年オフコース加入。「さよなら」「Yes-No」などのヒット曲があり、日本の音楽シーンをリードした。89年解散後、95年に活動拠点を秋田市へ移した。現在はユニット「A.B.C.」、「TEN-CHI-JIN」などで活動。エフエム秋田の番組「大間ジローJ's NEXT」（毎週火曜日午後6時半から）でパーソナリティーを務めている。

吹奏楽コンクール秋田大会



憧れの舞台だった旧県民会館。小坂中学校時代に吹奏楽コンクール県大会に出場した時の一コマ（最後列左から2人目）

「ミルハスの舞台に立ちたい」

—ミルハスにどう関わっていききたいか。

67歳になったが、体力の続く限りドラマーとして現役を続けたい。それ以上に若い世代を育てていきたい。世代をつなぎ、紡いでいくことが自らの役割と強く感じる。秋田県内や秋田を出て首都圏で頑張っているものの芽の出ない若者は大勢いる。

『キラリと光るもの』を持ちながら、埋もれている若者、夢を持って活動している若者たちを発掘し、世に出していきたい。そのときは、ミルハスはもちろん、行政、マスコミからの支援もお願いしたい。ミルハスがそうした若者たちの発表の場となしてほしい。

オフコースのメンバーだった松尾一彦（八峰町出身）、清水仁と一緒に「A.B.C.」を結成し、活動している。3人とも年を重ねてきたが、ぜひミルハスのステージに立ちたいと思う。その時には若い人たちともコラボレーションしたい。

—ミルハスは秋田市中心市街地のにぎわい創出の役割も期待されている。

オフコース時代は全国でコンサートを開き、いろいろなホールを回った。印象に残っているのはホールとともに駅舎、食べ物に特徴があった地方。広島では3日間公演があり、3日とも同じお好み焼き屋さんに通った。その後はそのお好み焼き屋さんがあるから広島でコンサートをとという気持ちもあった。



オフコース時代、日本武道館にて

アーティストサイドに立てば、また行きたいと思うような場所であればコンサートを開く動機になる。ファンにとってもホール以外に食べ物などの魅力があれば、行ってみようという気になる。秋田にはきりたんぼ、稲庭うどん、比内地鶏、ハタハタがある。アーティスト、ファン双方に十分魅力的。周辺の広小路や仲小路などの商店街とも連携していくことが大事。加えて、なかいちや県立美術館といった施設が近隣にあることもアピールすべきである。

—旧県民会館の思い出は。

小坂中、大館鳳鳴高時代は吹奏楽部に入っていて、毎年県大会で県民会館のステージに立った。憧れの場でもあった。オフコース時代は地元でのコンサートでもあり、高揚感があった。産業会館からより規模の大きい県民会館へとコンサート会場が移ったときには本当にうれしかった。

ミルハスも吹奏楽、伝統芸能に携わる県民の「憧れの場」となしてほしい。それが劇場自身を育てることにもなる。



新ホール誕生に心弾む

『指揮者 佐々木新平さん』

オーケストラや吹奏楽団などの指揮者として幅広く活躍する秋田市出身の佐々木新平さん(39)＝横浜市。気鋭のコンダクターが、ミルハスの運営や事業について専門家の視点から助言するアドバイザーに就く。アドバイザーとしての意気込み、ミルハスへの期待などを聞いた。

経験を故郷に還元したい

一開館とともにミルハスのアドバイザーを務める。

積み重ねてきた経験を故郷に還元したいとの思いが常にあった。これまで秋田で指揮勉強会などを開いてきたのも、その気持ちがあるから。アドバイザーになることで、これまで以上に還元できる。さまざまな人と関わることで自分自身も高められる。そうした機会を与えてもらい、うれしく思う。

一ミルハスでどんなことに取り組みたいか。

子どもたちの育成。秋田は吹奏楽が盛んなので、学校の枠を超えた楽団を運営できたら面白い。指導者の一人として関わりたい。秋田出身の他の音楽家と協力して、音楽のあらゆるジャンルを学ぶ講習会を企画できたらと思う。ミルハスなら大ホールでオーケストラ、小ホールでピアノ、練習室では楽器ごとの個人レッスンといった具合に同時進行も可能だ。指揮者としてステージにも立ちたい。

一ミルハスに期待することは。

人の心を豊かにするのが芸術。音楽や絵は1人で演奏したり描いたりできるが、受け手がいることが重要だ。多くの人が芸術や、それを提供する人と出会い、触れ合う場になってほしい。そのためには全国的に認められる施設になることが大事。全国規模のコンクールや魅力的なコンサートなどが開かれるようになれば、多くの人が集まる。企画力、発信力が問われる。秋田在住アーティストの後押しにも力を入れてほしい。定期的に公演できるようにすれば、県民が芸術に接する機会も増える。劇場は、そこに携わる人たちの創意工夫で育つ。

一県外在住だが、建設中のミルハスを見る機会はあるか。

建物ができていく様子を(開館準備事務所

の) ツイッターや、帰省の際に現地に足を運んで見ている。新しいホールの誕生には心が弾む。大・中・小ホールのほか、広がりのあるエントランスや来場者がくつろげるスペースなども備え、秋田の芸術文化の拠点にふさわしい。

一大ホールは約2千人収容、音響にもこだわった造りだ。

オーケストラや吹奏楽などに幅広く対応できるのではないかな。合唱付きの「大なる秋田」のような大規模な演奏も支障なくできるだろう。バックヤードは一定の広さを確保しているようで楽屋も多く、出演者はリラックスできると思う。

集客力高め周りと連携を

一ミルハスは中心市街地活性化への貢献も期待されている。

ミルハスの周りには多くの商業施設や文化施設がある。ミルハスの集客力を高め、それらの施設と連携することによって展望が開けていくのではないかな。例えば商店の品物をミルハスでPRしたり、コンサートを聴いた人

が各施設で何かしらのサービスを受けられるようにしたりしてはどうか。

一自身の活動について。今年1月、ヤマハ吹奏楽団(静岡県浜松市)の常任指揮者に就任し、新たな一歩を踏み出した。

国内トップクラスの楽団を指揮する責任の重さを感じている。一方で、常任指揮者になって初のステージとなった6月の定期演奏会では、それ以上の楽しさも味わえた。観客や関係者から「明らかに音が変わった」と評価してもらった。団員とアイデアを出し合い、成長したい。楽団はコンサートを全国展開する方針。ミルハスでも演奏できたらうれしい。

一指揮を続ける中、秋田で生まれ育ったことを意識する時はあるか。

音楽は、勉強さえすればいい音が出せるというわけではない。それぞれのバックグラウンドが反映される。さまざまなイメージを持ちながら指揮するのだが、秋田の自然や景色が浮かぶことが少なからずある。都会で生まれ育った人にはないことだろう。自分にとってアドバンテージとなっている。



ささき・しんぺい

1982年、秋田市生まれ。指揮者。秋田南高校卒業後、東京学芸大を経て桐朋学園大で指揮を学ぶ。2010年から東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の指揮研究員、15年から19年まで同楽団アソシエイト・コンダクター。21年1月、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者に就任。22年6月からミルハスのアドバイザーを務める。横浜市住。

県民100人アンケート

ミルハスに「関心がある」と答えた人は81%に上り、「足を運びたい」も83%に達した。あきた芸術劇場開館準備事務所が10～80代の県民100人を対象に行ったアンケートで、全ての年齢層からミルハスへの期待が寄せられた。

ミルハスに「関心」81%

「ミルハスの開館に関心がある」（「どちらかといえばある」を含む）と答えた人を年代別で見ると、20、60、70代が100%で、30代の83%、80代の78%と続いた。「開館したら足を運びたい」（「どちらかといえば思う」を含む）と答えた人は、20代と60代が100%、70代が92%となっている。

ミルハスに期待すること（複数選択可）では、「催しがない時でも飲食や休憩などで気軽に立ち寄れる場になってほしい」（57人）、「これまで見られなかった公演を見たい」（55人）で半数を超えた。にぎわい創出を期待し「周辺の文化施設や商店と連携して中心市街地の活性化に努めてほしい」（47人）との回答も目立った。

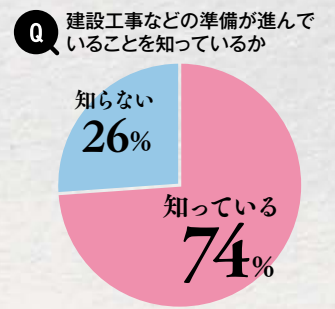
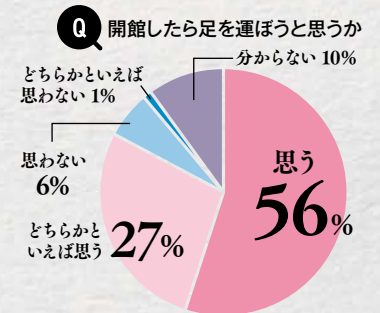
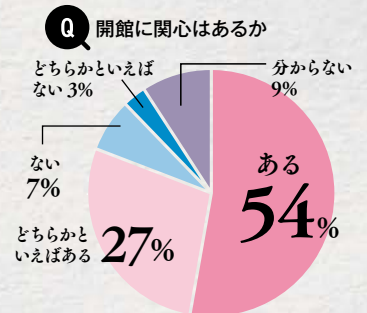
ミルハスへの要望（自由記述）では、各年代を通して、「有名な人呼んでほしい」（10代）、「若者が楽しめる公演を定期的に開いてほしい」（20代）、「さまざまなアーティストの公演を開催してほしい」（40代）、「コンサートをどんどん開いてほしい」（60代）、「コンサートをどんどん開いてほしい、開館イベントなどをこまめにPRしてほしい」（70代）、「目の肥えた人も素晴らしいと思える公演を開催してほしい、地元の演劇や音楽の愛好家が気軽に使えるようにしてほしい」（80代）、「コンサートをどんどん開いてほしい、利用料を高くしないで、十分な駐車台数を確保してほしい」（80代）

ほしい」（60代）、「目の肥えた人も素晴らしいと思える公演を開催してほしい」（70代）など、ミルハスの特徴を生かした公演の充実を要望する声が多く寄せられた。

このほか、「子どもにとっても入りやすく親しみやすい施設になればいいと思う」（40代）や「広く親しまれる施設になってほしい」（50代）など、県民にとって身近な劇場となるよう求める声もあった。

公演内容について関心のある分野（複数選択可）ではJポップが37人、クラシックが32人、ミュージカル28人、落語24人と続いた。

具体的に公演してほしいグループや個人（自由記述）については、10代はアイドルグループのSexy ZoneやKing&Prince、20～50代ではRADWIMPSやスピッツなど人気バンドが挙がった。50代以上では市川海老蔵さんら歌舞伎俳優や立川志の輔さんら落語家、北島三郎さんら演歌歌手の名前が寄せられた。劇団四季は幅広い年齢層から公演を望む声があった。



Q ミルハスへの要望は（自由記述）

10代	有名な人呼んでほしい
20代	若者が楽しめる公演を定期的に開いてほしい、Kポップアイドルを呼んでほしい
30代	秋田市の活性化に期待、カフェなども充実させてほしい
40代	さまざまなアーティストの公演を開催してほしい、子どもにとっても入りやすく親しみやすい施設になればいいと思う
50代	多様なワークショップの実施を、広く親しまれる施設になってほしい
60代	コンサートをどんどん開いてほしい、開館イベントなどをこまめにPRしてほしい
70代	目の肥えた人も素晴らしいと思える公演を開催してほしい、地元の演劇や音楽の愛好家が気軽に使えるようにしてほしい
80代	集客力のある催しを継続して開催してほしい、利用料を高くしないで、十分な駐車台数を確保してほしい

Q どの分野に関心があるか（複数選択可）

Jポップ	37人
クラシック	32人
ミュージカル	28人
落語	24人
民俗芸能（民謡など）	20人
歌舞伎	20人
演歌	17人
オペラ	7人
バレエ	6人

【その他】吹奏楽3人、演劇、子ども向けイベント各2人、ヒップホップ、ラップ、Kポップ、ジャズ、日本舞踊各1人など

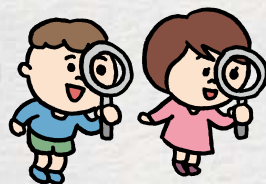
Q ミルハスに何を期待するか（複数選択可）

催しがない時でも飲食や休憩などで気軽に立ち寄れる場になってほしい	57人
広い舞台や音響が特徴の大ホール、演劇などに適した中ホールで、これまで県内で見られなかった公演を見たい	55人
周辺の文化施設や商店と連携して中心市街地の活性化に努めてほしい	47人
県内の芸術文化団体・愛好者などが利用しやすいよう運営してほしい	36人
特になし	4人

Q 公演してほしいグループ、個人は（自由記述）

10代	Sexy Zone、King&Prince、YOASOBI、EXILE、back number
20代	RADWIMPS、スピッツ、米津玄師、BiSH、BTS、劇団四季
30代	DRUM TAO、くるり、星野源、東京佼成ウインドオーケストラ
40代	Mr.Children
50代	高橋優、小曽根真、市川海老蔵、片岡愛之助
60代	山下達郎、劇団四季、宝塚歌劇団、劇団わらび座、立川志の輔
70代	NHK交響楽団、北島三郎、吉幾三、鳥羽一郎、劇団前進座
80代	五木ひろし、藤あや子、林家たい平、県内の民謡団体

ミルハスの「顔」に ズームイン



ミルハスの建設工事が、秋田市の旧県民会館跡地で進んでいる。劇場は地上6階、地下1階建て、延べ床面積約2万2千平方メートル。鉄骨が組み上がり、内外装工事などが進む。来春竣工の予定だ。劇場の顔とも言えるのが、音響にこだわり幅広い演目が可能な2千人規模の大ホールと、秋田の舞台芸術活動の拠点となる中ホール。二つのホールを紹介する。

来春竣工へ工事進む



来春竣工に向けて建設工事が進むミルハス。
手前が中ホール、奥が大ホール

大ホール

優れた音響、ステージ広く



高い音響性能とステージ機能を併せ持つ。クラシック公演や吹奏楽の大会、ポップス系音楽の興行のほか、オペラ、ミュージカル、歌舞伎などに対応する。

舞台上に収納式音響反射板を備え、ホール内壁は木レンガの凹凸により適度に音を拡散・反射させる。

舞台の大きさは間口21～14メートル、奥行き18メートル、高さ14～9メートル。舞台両脇の袖を合わせた全幅は52メートル。旧県民会館に入らなかったサイズの美術セットを設置できる。これまで県内で見られなかったスケールのコンサートなどを楽しめそうだ。楽屋は9室あり、計約100人を収容する。

客席数2007席は東北有数の規模。客席の前方をオーケストラピットに転換したり、一部に仮設花道を設けたりすることができる。

クレーンを使い建設工事が進む大ホール内部。写真左側の足場の奥が客席、足場のない手前一帯が舞台になる



概要

客席	2007席（1階1380席、2階627席）、車いす常時2席、多目的室6席
舞台	間口21～14メートル、奥行き18メートル、高さ14～9メートル（袖を合わせた全幅52メートル）
特徴	高い音響性能とステージ機能を持ち、幅広い演目に対応 客席はオーケストラピットへの転換、仮設花道設置が可能

中ホール

舞台芸術活動の拠点担う



現代舞踊の草分けといわれる石井漠（三種町出身、1886～1962年）、暗黒舞踏を確立した土方巽（秋

田市出身、1928～86年）を生んだ地にふさわしいホールが誕生する。演劇や舞踊など県内の舞台芸術活動の拠点を担う。

演者のせりふが客席に届きやすく、臨場感にあふれる。舞台は間口14メートル、奥行き15メートル、高さ9～7メートル。袖を合わせた全幅は38メートル。舞台上にせりを備えるほか、客席に仮設花道をつくることも可能で、演出の幅を広げる。舞台には移動式音響反射板を設置できる。7室ある楽屋は計約80人を収容する。

客席は800席。ホール壁面には秋田の伝統工芸品である組子細工をイメージしたデザインを取り入れる。



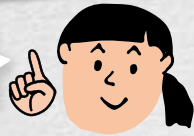
中ホール内部の工事の様子。写真右側の足場の奥に客席を設け、手前の足場のない一面が舞台となる

概要

客席	800席（1階500席、2階300席） 車いす常時2席、多目的室4席
舞台	間口14メートル、奥行き15メートル、高さ9～7メートル（袖を合わせた全幅38メートル）
特徴	演者のせりふが客席に届きやすく、臨場感にあふれる 舞台上にせりを備え、客席に仮設花道を設けることが可能

通常予約スタート!

受付開始日は施設の種類と
利用形態で違います



ミルハスの通常予約の受け付けがスタートした。8月の大ホールを皮切りに、9月に中ホール、10月には小ホールの受け付けが始まる。各ホールはグランドオープンイベント後の来年9月26日から一般利用できる。施設の利用申し込み方法や注意点を紹介する。

貸し出し施設と一般利用の開始日

貸し出し施設は大ホール、中ホールのほか、2室ある小ホール、練習室（9室）、研修室（3室）、創作室（5室）など。各ホールはグランドオープンイベント後、練習室などの諸室は開館記念式典後の来年6月6日から一般利用できる。年末年始の12月29日～翌年1月3日は休館。大・中・小ホールは毎週火曜日も休みとなる。

利用申し込みから確定まで

利用予約の受付開始日は、施設の種類と利用形態によって異なるので注意が必要。公演・展示利用の場合、大ホール（全館利用含む）が希望日の13カ月前、中ホールが12カ月前、小ホールは11カ月前となっている。練習等利用の場合は大・中ホールが3カ月前、小ホールは2カ月前となる。諸室は2カ月前から受け付ける。

各ホールの公演・展示利用は、原則として毎月1～3日に予約を受け付ける。予約状況はホームページで確認できる。所定の様式に必要事項を記入し郵送、メールなどで申し込む。事務所へ持参してもよい。受付開始日の6日後に利用日が確定する。希望が重複した場合は抽選を行う。確定日以降に空きがあれば、希望日の2週間前まで申し込める。利用日確定後、概算料金の支払いなどを行う。

先行予約

大ホール（全館利用含む）または中ホールの公演・展示利用は先行予約が可能。全国、東北または全県規模の大会や、各種団体の式典・周年事業などが対象となる（要相談）。大ホールが24カ月前、中ホールは18カ月前の月の初日から予約を受け付ける。

利用料金

各施設の利用料金、減免については県と秋田市の条例に基づき10月以降に決まる。

施設利用の申し込みから確定までの流れ

予約状況と受付期間の確認

利用予約状況と予約受付期間を確認する。受付開始日は利用施設や利用形態によって異なるので注意。

利用予約申し込み

所定の様式に必要事項を記入の上、郵送、FAX、メールなどで申し込む。事業内容が確認できる書類があれば添付する。

利用日確定に関する通知

利用申し込み後、審査を受ける。適当と認められると、利用日確定の通知が交付され、概算料金の支払いなどを行う。不適当と判断された場合は、その理由を付した通知が交付される。

利用希望日が重複した場合

利用希望日が重複した場合は抽選となる。受け付け締め切り後、抽選日時などの連絡を受けたら事務所来所の可否を、抽選日の前日までに回答する。抽選では利用申し込みの受け付け順にくじを引くが、来所した人が優先される。来所できない場合は事務所職員が代理を務める。

公演・展示利用

各施設の受付開始日、受付期間など

	受付開始日		受付開始日からの 受付期間	利用確定日	最終受付日
	通常予約	先行予約			
大ホール (全館利用含む)	利用希望日の13カ月前の月の初日	利用希望日の24カ月前の月の初日	受付開始日から3日間	受付開始日の6日後 ※希望日が重複した場合は抽選	利用希望日の2週間前
中ホール	利用希望日の12カ月前の月の初日	利用希望日の18カ月前の月の初日			
小ホール	利用希望日の11カ月前の月の初日	—			

練習等利用

	受付開始日	受付開始日からの 受付期間	利用確定日 (抽選日)	最終受付日
大ホール 中ホール	利用希望日の3カ月前の月の初日	未確定	未確定	未確定
小ホール 諸室	利用希望日の2カ月前の月の初日	未確定	未確定	未確定

出席者から質問続々

利用予約説明会

あきた芸術劇場開館準備事務所は、秋田市文化会館で利用予約説明会を開いた。6月に2回にわたって開き、県内の芸術文化団体や学校、マスコミの関係者ら計約60人が出席。事務所職員が「申し込みの際は、まず予約状況と受付期間を確認してほしい」「申込内容を審査し、適当と認められる場合は利用日確定を伝え、不適当となれば理由を付した通

知を交付する」などと話した。

質疑応答では、出席者から次々と質問が出され、事務所職員らが答えた。大・中・小ホールが休館する火曜日が祝日の場合は開館して、翌日を休みとする方針と回答。施設の用途に関しては「小ホールは会議にも利用できる」などと説明した。利用料金に関する質問も目立った。



2回にわたって開かれた利用予約説明会

Mille Has information

9/23

THU

グランドオープン1年前イベント



開演

13:30



会場

秋田拠点センター・アルヴェ (1階さくらめき広場)

入場無料

※観覧席は100席(先着順)

来年のグランドオープンへ弾み! あきた芸術劇場開館準備事務所と県、秋田市は、ミルハスグランドオープンの1年前となる9月23日(木曜・祝日)、秋田市の秋田拠点センター・アルヴェ1階さくらめき広場でカウントダウンイベントを開く。カウントダウンを盛り込んだダンス、郷土芸能、バンド演奏など幅広いステージを展開する。

ステージには県内の中高校生やミュージシャンらが出演する。午後1時半、同市のダンススタジオCHEE:SE(チーズ)のジャズダンスとカウントダウンで幕開け。大曲農業高校郷土芸能部による郷土芸能、市内中学生が学校の枠を超えて結成するスーパーバン

ドの吹奏楽演奏、男鹿睦実(むつみ)会などの民謡がステージを盛り上げる。県内ミュージシャンは2組が登場。歌手・ラジオDJの藤田ゆうみんとロックバンド・鴉(からす)が、それぞれライブを行う。

会場ではミルハスのロゴマーク投票や、県内の民俗芸能を紹介するパネル展示も行う。

入場無料。100席の観覧席を設ける(先着順)。新型コロナウイルス感染対策として、入場時に検温や手指消毒を徹底、座席指定とする。観覧者は配布される座席券に氏名、住所、電話番号を記入して提出する。

(感染拡大状況によってはイベントを変更または中止する場合があります)

■ プログラム

※変更になる場合があります

13:30~ ダンススタジオ
CHEE:SEのジャズダンス
とカウントダウン

14:15~ 藤田ゆうみんさんライブ

15:00~ 大曲農業高校郷土芸能部
による郷土芸能

15:45~ 秋田市内の中学生バンド
による吹奏楽演奏

16:45~ 男鹿睦実会などによる民謡

17:30~ 鴉ライブ



ダンススタジオ CHEE:SE



藤田ゆうみんさん



大曲農業高校郷土芸能部



鴉

sensyu-komichi

千秋
小径

誰もいないホール。ロックシンガーがギターを手に一人で歌っている。新曲を収録したミュージックビデオの一場面。寂しさを禁じ得ないが、コロナ禍の音楽業界の現状を象徴した光景でもある。アーティスト、ファンの双方が満員の会場でのコン

サートを心待ちにしている▼来年6月の開館に向けて、あきた芸術劇場の整備が進む。2019年7月の着工から2年。工事の進捗率は5割を超えた。広小路を歩くと劇場の骨格が組み上がったことを実感できる。いやがおうにも気分が高まる▼千秋公園の一角、お堀のそばという立地は旧県民会館時代からアーティストに高く評価されてきた。リハーサルの合間に公園を散策してリラックスしている様子がSNSで紹介されたこともあった▼設備面に目を向けると、旧県民会館が抱えていた課題もクリアしている。その一つが舞台の広さ。旧県民会館は舞台が狭く、全国ツアーのセットをそのまま組めないことがあり、スタッフ泣

かせでもあった。この理由で全国ツアーから秋田が外されたこともあったと聞く。もうそんなことはない▼劇場の開館を契機に、これまで秋田で公演したことのないアーティストをどんどん招きたい。コンサートや公演はアーティストだけのものではない。聴衆も一緒になって盛り上がることで初めて成立する。劇場は場の提供者であり、アーティストと聴衆によって成長する▼冒頭のシンガーは浜田吾吾さん。浜田さんは歌う。「長い坂道の向こうに広がる世界はまだ見えてはこないけど、長い坂道の上に広がる空は高く青く深く強く凛と輝いている」。コロナに打ち勝ち、青空の下で開館の日を迎えたい。

あきた芸術劇場ミルハス

<発行>あきた芸術劇場AAS共同事業体
〒010-8572 秋田市山王三丁目1番1号
秋田県庁第二庁舎3階 創業支援室B-7
TEL.018-838-5822 FAX.018-838-5825
E-mail/info@akiat.jp https://akiat.jp

